

千年の森便り No.172

2017.11.22

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

11月19日(日) 晴

19日は師走並みの寒気が来るとの予報通りで、弱い日差しに肌寒い風が吹きました。

森林内作業では安全第一ですから、まず久我さんのリードで体をほぐすストレッチをしてから、きのこ栽培用の楢木を伐採するチームは即行動開始、植物や昆虫など各自のテーマで行動する人は分散して林内に入って行きました。細かい指示無しで自由に行動できるのはこの会の良い点だと思います。

昼休みの時間には次の点について話合いました。

ナラタケ、ツチアケビに優しい林内整備について、公開行事に千葉駅方面から送迎バスが出せないか、ギャップ更新地の植生調査の今後について、秋のきのこ観察は複数回にできないか、これらは特に急いで結論を求めるものではなく、意見交換で終わっています。

午後は伐採を続けるチームとホテイ岬方面の林内整備組に分かれて作業しました。(坂本)

参加会員は秋元、新井通子、伊藤、鶴沢、及川、刈米、久我夫妻、坂本、田島、成沢、根本、松田、真鍋、村野、山口の16名でした。



○原木伐採

コナラ林区域にて、林床に光を入れることとシイタケ原木として利用するため、コナラを7本伐採しました。伐採木は年明けの2月まで葉枯らしを行い、その後、植菌の予定です。他にイヌシデを1本、遊歩道脇の立ち枯れたマツを1本伐採しました。作業は、刈米、根本、山口、及川、成沢の5名が担当しました。コナラ伐倒の際にかかり木になりましたが、チルホールと滑車を駆使し、安全に処理することができました。(成沢)



匠のロープワーク



チルホールでけん引



伐木！！

○ホテイ岬の整備

午後からは、調査の終わったメンバーも参加して9人でホテイ岬の整備に取り組んだ。マダケや枯れ木を伐採集積して、だいぶすっきりしてきた。

まずは、遠くに吊り橋を望む新たな展望スポットとして整備し、やがてはテーブルなども設置して湖面を眺める休息所としたい。(伊藤)



湖面を眺める休息所を目指して

○昆虫観察記録

今日は気温が低く曇りがち。捕虫網を持ってウロウロしていると、「虫はいるの？」と皆さんが心配して声をかけてくれる。確かに飛んでいる虫はほとんどいないが、ひっそりとどこかに隠れているはず。ここは腕の見せ所と、はりきって落ち葉の下、朽ち木の中、常緑樹の葉の裏などを探す。冬の虫探しは、見つけたときのワクワク感がたまらなく楽しいものだ。

朽ち木にオオゴキブリの幼虫、積もった落ち葉にはモリチャバネゴキブリの幼虫がゴソゴソと動いている。これらゴキブリたちは、朽ち木や葉っぱを分解する大切な森の住人。



オオゴキブリの幼虫



クチキコオロギ♀



チャバネアオカメムシ



ヒトオビトンビグモ

幹の小さな穴に大きな虫がお尻だけ見せており、ドキリとする。「頭隠して尻隠さず」、常緑広葉樹林に住むクチキコオロギのメスのようだ。恐らく成虫で越冬するのだろう。

午後からの作業で枯れた真竹を伐採すると、中にヒトオビトンビグモがいた。竹の中は、雨風の当たらない最高の個室だが、どうやって入ったのだろうか？

木の葉の裏には、カメムシや小さなクモがいっぱい！チャバネアオカメムシは、越冬中はくすんだ茶色に変色する(越冬カラー)。見えないところで沢山の命がひっそりと息づいていた。

(他に観察された昆虫)

イシノミの一種、オオカマキリ卵のう、ツマグロオオヨコバイ、ツヤアオカメムシ、ホソアトキリゴミムシの一種、ヤマトシロアリ、セスジユスリカ (田島)

○きのこ観察

千年の森のきのこは、僅かになりました。

ナラタケ・・・ギャップ更新地の外側に発生していました。

シロカノシタ・・・バター炒めなど、食用になる美味しいきのこです。

アカモミタケ・・・モミの根元に生えるきのこですが、ちょっと早いようです。

クリタケ(注)・・・房総では、珍しい食用きのこです。

コウモリタケ・・・噛むと苦いキノコです。毒はなく、不食です。

フウセンタケの仲間・・・標本が古いので、同定できません。

ベニタケ属の仲間2種・・・傘が桃色と白色の小型のもの。

その他硬いきのこは、カイガラタケ・カワラタケなど見られました。

栽培シイタケが10個ほど収穫できました。(松田)

(注) 以前豊英島で植菌し栽培していたクリタケが広がった可能性があります。



ナラタケ(秋元)



アカモミタケ(坂本)

○野鳥の記録(出現順)

ヤマガラ 1+声 シジユウカラ声 オシドリ 10 エナガ声 コゲラ声 ウグイス地鳴き声 ハシブトガラス声
ヒヨドリ 3+声 トビ 2+声 メジロ声 ハシボソガラス声 11 種

毎回吊り橋を渡る時、空を見回してトビの姿を探していますが、今回も見られませんでした。その後、橋上のセンサーカメラの電池交換中にやっと2羽確認しました。トビは減少傾向が続いています。(坂本)

○センサーカメラの画像

今月回収のメモリーにあった画像はニホンジカ、ニホンザル、ノウサギ、ネズミの一種、イタチまたはテンの5種類でしたから、ますますの成果でした。

ネズミは島内に生息しているだろうと推測していましたが、小さいのでセンサーが反応せず、写らないと思い込んでいました。今回は一挙に5カットもあったので驚きです。

図鑑で調べるとアカネズミに似て居るように見えますが、専門外なので詳しい方の同定を待ちたいと思います。

ノウサギが吊り橋を渡って島に入りましたが、林床に餌になるような草はシカの食害で皆無状態と思います。危険を冒して橋を渡っても無駄足になったのではないのでしょうか。心なしか痩せてやつれているように見えます。

(坂本)



ネズミ'(センサーカメラ 10/15)



ノウサギ(センサーカメラ 10/11)

○晩秋の植物たち

晩秋のギャップ更新地は白や青の花、そして幼木達は黄や紅に染まって賑やかです。

白や青はリュウノウギク・リンドウ、黄や紅はヤマコウバシ・ゴズイなどです。

目を引く紅葉をよく見ると昨年まではコマユミであったのに今年は枝に翼が出ていて ニシキギに変容・・翼が出たために呼び名が変わったものです。また今の時期は花の付き方が明瞭なので、見渡すとコウヤボウキとナガバノコウヤボウキがよく見え、占有率はほぼ半々で生育域も分かれているのも面白い現象です。(新井通子)



リュウノウギク(秋元)



リンドウ(秋元)



ヤマコウバシ(秋元)



ゴズイ(秋元)



ニシキギ(秋元)



コウヤボウキ(秋元)



ナガバノコウヤボウキ(秋元)



ミヤマシキミ(伊藤)

ミヤマシキミの赤い実が印象的でした。(伊藤)



秋晴れの豊英湖は冴えわたり(伊藤)



紅葉は未だ未だでした(田島)



これ何?きのこ?(秋元)

10月12日（木）平成29年度 千葉県環境講座

10月12日に千葉県が主催する環境講座のプログラムの一つとして会のフィールド豊英島を案内しました。千葉駅前から大型バスを出しましたが、座席数の関係で、40名限定募集のところ応募が殺到し、倍率が2倍だったそうです。講師として中央博の吹春先生、千年の森から坂本、主催者の県担当職員2名、行事实施団体の環境パートナーシップちばから事務局2名が同乗して満席+補助いす2席使用で出発しました。

車内では坂本が最初に豊英ダムと豊英島の概要、ちば千年の森をつくる会の諸々を紹介し、次に吹春先生がきのこの生き方、森林との関係、特殊なランとの関係などについて熱弁を振るい、受講者の反応も良かったので終点までマイクを離せませんでした。尚、帰路も車中で午前の話の続きがあり、質問が途切れなかったため千葉駅の直前までガイド席に立ったままで質問に答えていました。

現地では伊藤事務局長が里山センター所有のヘルメットを人数分借りて先回りし、吊り橋の入口で着用してもらいましたので、皆さんの心構えも引き締まったと思います。

島内のきのこ発生状況は4日の定例活動日と同様でしたが、種類は様変わり、ウラベニホテイシメジが大発生。ミネシメジ、フウセンタケの仲間、クサウラベニタケ（毒）なども至る所で見られました。巨大コウタケも取れましたが、逆に前回話題の中心だったバカマツタケとイグチの仲間は皆無、テングタケ類、サクラシメジもほんの少々でした。

前回下見で来ていた環境パートナーシップちばの桑波田さんも余りに急激な変化に驚いていました。大部分の参加者にとって野生きのこの観察、採集は初体験で最初は林内の行動に戸惑った様子もありましたが、次々に発見されるきのこに歓声を上げ、夢中で探していましたので思い出に残る講座になったと思います。

午後は何時ものように採集物をブルーシートの上に並べて、吹春先生の解説となりました。山盛りのきのこを前に「まるで売れない露天商にでもなった気分だ」と冗談で最初から笑わせていました。熱心にメモを取りながら一言も聞きもらさないように集中している皆さんの姿も印象的でした。

ちばTVの取材もあり、会のPRにチャンスと思いましたが雑用に追われ、対応の暇がなかったのが残念でした。

講義の中で吹春先生から「千年の森の皆さんが林内をきれいにしているのでナラタケの餌になる枯れ木が少なくなり、ナラタケと共にツチアケビも衰退しているのでは無いか」との指摘がありました。立ち枯れの樹木は落枝や倒れる事の危険があるので人的被害予防のために切り倒しているのは事実ですが、島外に持ち出したり、焼却などは一切せずに元の場所に置いてあるので影響は少ないと思います。ただし、影響が皆無とは言えず、枯れ枝や幹の高い所に出るハナビラニカワタケなど何種かのきのこ類、枯れ木に穴を掘り巣作りや餌探しをするキツツキ類には影響があると思います。皆さんの考えは如何でしょうか？

尚、今回は千葉駅からのバス便があったので遠方でも参加しやすく、抽選をする程の賑わいでしたので、これを参考に次回以降私達の公開行事でも何らかの方法でバスが出せないか検討したいと思います。（坂本）

吹春講師のコメント

12日の千年の森の観察会は、バスの中で下ごしらえの話ができて、森に入ることができたので、よい観察会でした。坂本さん、伊藤さんの、完璧な体制と立派な千年の森のおかげです。有難うございました。（吹春）





平成 29 年度千葉県環境講座報告（環境パートナーシップちば「だより 118 号」から）

「キノコから見えてくる自然」～キノコ探しを体験してみよう～

10月12日（木）君津市豊英ダム湖内に浮かぶ豊英島の「ちば千年の森」でキノコを学ぶ講座のバスツアーを開催しました。

スタッフを含め総勢48名と現地で合流した千葉テレビの取材班3名が島を訪れました。豊英島へは吊り橋を渡って入ります。ここは会の活動以外は人の出入りがなく人為的な影響が少ないため「生物多様性保全をめざす超長期な森づくり」を実践しているとのことでした。

講座は、千葉県立博物館の吹春俊光氏と、ちば千年の森をつくる会の坂本文雄代表に講師を依頼し、2班に分かれ、安全対策上全員ヘルメット着用で森に入る体験学習です。（ヘルメットは、ちば里山センター副理事長の伊藤道男氏がわざわざ準備くださいました。）

参加者の中には、採集が初めての方も多く、午前中は森の中でキノコ探し、落ち葉の中から巨大キノコを発見しては歓声が響き渡りました。午後は種別解説で参加者が篋いっぱい採集したキノコをブルーシートに山積みし、これを吹春講師が手際よく種別に選別したものが約55種類。講師のユーモアたっぷりの解説に参加者全員が聞き惚れてキノコの世界に引き込まれてしまいました。

採集したキノコは初めて目にするものが多く、なかでも巨大なコウタケはグロテスク姿にもかかわらず味よし香りよしの解説や沢山採れた大きなウラベニホテイシメジの山積みも印象的でした。

今までキノコの知識は店頭に並んだキノコ程度でしたが、採集したキノコを観察で知り、更に解説では「キノコは菌類で、胞子をつくる特殊な器官の姿で森に出現し、植物との共生関係を保って森づくりに大きな役割を果たしている」とのことで、参加者は一層の理解が得られた様子できっと明日から森の観方が変わってくるものと確信しました。【環境パートナーシップちば 萩原耕作】

お知らせ

○12月の活動日 12月3日（第1日曜日）9時30分君津市自然休養村管理センターに集合、シカ個体数調査 巨木林成長量調査、植物・野鳥調査 物置整備など計画しています。

豊英島は紅葉の見ごろです。

○新年会の予定 久我さんのお世話で、千葉駅前の居酒屋の予約をお願いすることになりました。1月27日（土曜）15時ごろから始めて早めの切り上げる予定です。会費3000円程度を考えています。場所の予約が取れたら改めてご案内しますのでお気軽に参加願います。